平成21年
（2009年）
夏号

大津・南部の農業

発　行
滋賀県大津・南部農業農村振興事務所農産普及課
草津市草津３丁目14－75
TEL 077-567-5421～5423
FAX 077-562-8144
メールアドレス　ga35@pref.shiga.lg.jp
発行責任者　若井英太郎

この印刷物は古紙パルプを配合しています

目次

●組織再編のお知らせ……1
●県内最大の野菜産地「大津・南部」……2
●大津のブランド「はなふじ米」……3
●湖南地域食育シンポジウムを開催しました！……4

上空から大津・南部地域を望む（写真：国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所提供）

県の振興局等の再編に伴いまして、この４月から、大津市および南部４市（草津市、守山市、栗東市、野洲市）を対象とする普及業務と農業行政事務を、南部合同庁舎（前南部振興局庁舎）内にあります当課が担当することとなりました。

大津・南部地域の農業農村を、健全かつ持続可能な姿で次の世代に引き継いでいくために、なごみと活力に満ちた農業の振興と田園空間の創造を通じて日々取り組んでまいりますので、よろしくお願いします。

今回は、こうした観点から両地域の元気のある取組を紹介させていただきます。

県内最大の野菜産地「大津・南部」

1 野菜栽培の特徴

大津・南部地域の野菜生産額は、約30億円で、県全体の約41％を占めています（図）。品目別には、ミズナ、コマツナ、ホウレンソウなどの葉物野菜が中心です。これらの作付延べ面積は約338haで、県内最大の産地を形成しています。さらに、直売向けのメロンも４市で約16ha栽培されています。

2 環境こだわり農産物の生産

環境こだわり農産物の認証もひろがり、管内では平成20年度で約73haとなっています。コマツナ、シュンギク、ホウレンソウといった葉物野菜での取組が多く、果菜類ではメロン作付面積の約50％が環境こだわり栽培となっています。

3 新しい技術の普及

県で開発した少量土壌培地耕栽培は、管内ではイチゴやトマトなどで約20,000㎡で、新規就農者や定年帰農者などの早期経営安定に一役かっています。また、新たにアムスメロンでも技術が確立され、昨年度に守山市で現地実証試験を行いましたところ、慣行栽培と遜色のない良好な結果を得られ、今後の普及が期待されています。

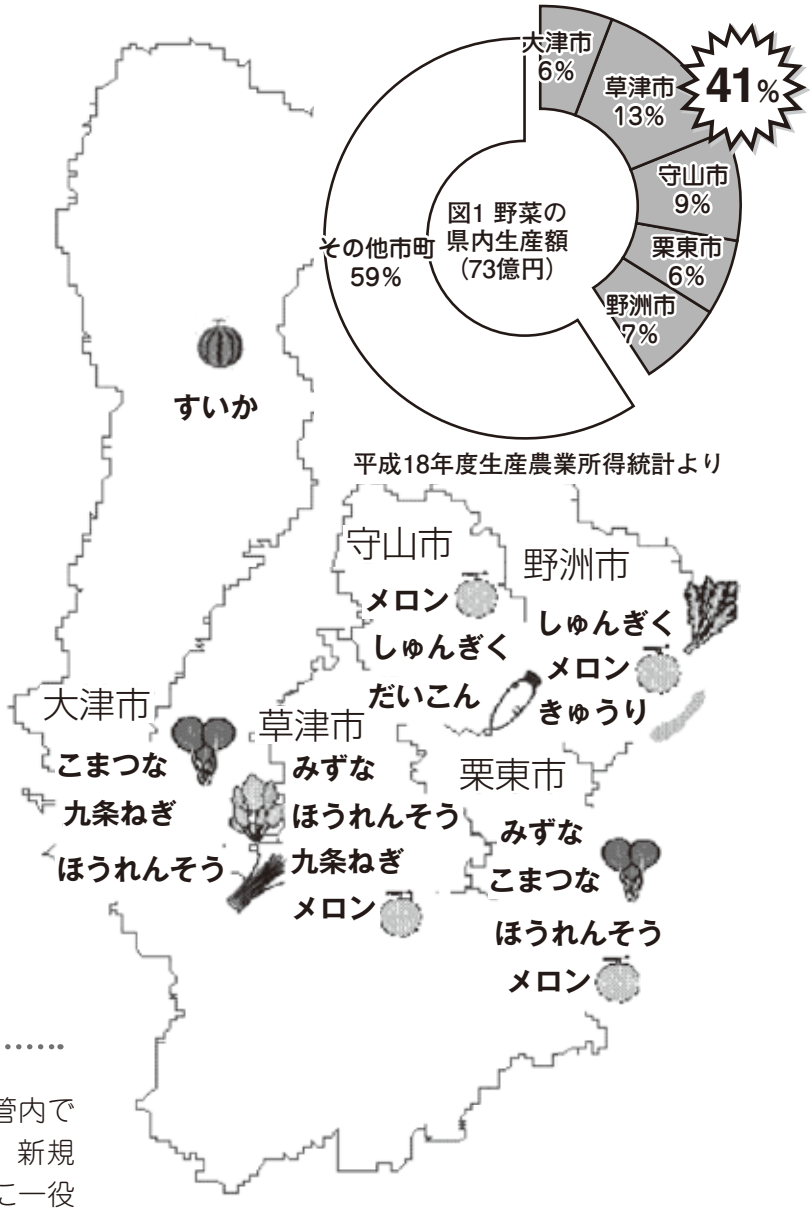


図　大津・南部地域で栽培される主な野菜

少量土壌培地耕によるイチゴ（左）・メロン（右）の栽培

ヘアリーベッチ
跡作水稲栽培

大津のブランド「はなふじ米（まい）」

1 ヘアリーベッチってなに？

マメ科の一年草で、葉はカラスノエンドウに似て蔓（つる）性です。５月に小さな藤色の花を付け、和名はビロードクサフジなどです。また優れた緑肥効果とともに雑草抑制作用があります。水稲の前作にレンゲのように栽培すると、肥料節減効果があり、大津地域で取組がはじめられています。

ヘアリーベッチの花

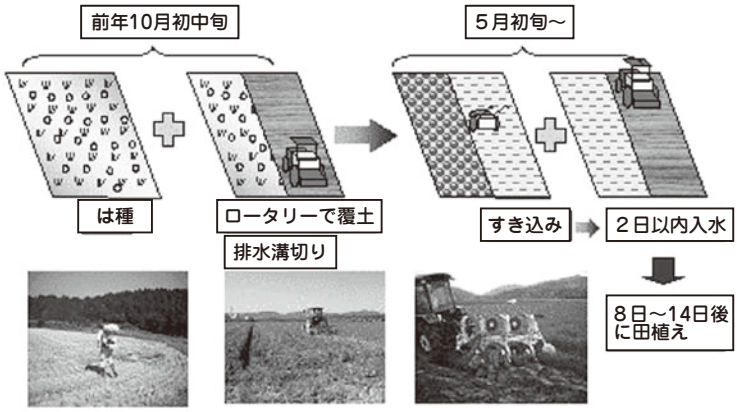
2 ヘアリーベッチ栽培と跡作水稲栽培

ヘアリーベッチは、下図のよう前年秋に播種し、田植え前にすき込みます。

その緑肥効果は、平成19年秋から初めて取り組まれた大津地域８集落の６haで、平均して窒素量で８～12kg/10aほどもありました。

この結果、水稲が無肥料で、慣行栽培と同等か、やや良い収量と食味を確保できました。肥料代がいらないため、ヘアリーベッチの種代のみの3,750円と生産費の大幅な節減となりましたが、作業時間は、ヘアリーベッチ栽培とすき込み作業の分が増えました。

また、ほ場によっては、ヘアリーベッチの生育不足による水稲の生育不良や、逆に過剰による倒伏も見られました。２年目となる今年は生産者も増え、面積も17haに拡大し、すき込み量の加減などに取り組まれています。



ヘアリーベッチ跡水稲栽培
～ヘアリーベッチは種からすき込み・入水まで～

3 ヘアリーベッチだけで育てた「はなふじ米」として好評販売

JA直売所で販売される「はなふじ米」

ヘアリーベッチ跡に栽培した初めてのお米は、JAレーク大津で「はなふじ米」と名付けられ、JA直売所グリーンファーム石山店で発売されました。

「はなふじ米」は、地元産で化学肥料を使わない緑肥栽培であることと味が良いとの評判で、今年１月には店頭精米部門の売り上げトップとなり、他のお米の販売も底上げすることになりました。

湖南地域食育シンポジウムを開催しました！

1 はじめに

最近「食育」という言葉をよく耳にしますが、農業面から「食育」へのアプローチはどんなことができるのでしょうか？食文化の伝承や地産地消の推進、生産者と消費者との交流、学校や地域での農業体験などが考えられます。

昨年度、南部振興局では、食育への理解を深めるため啓発活動等を行いました。今回は、その中から「湖南地域食育シンポジウム」について紹介します。

2 食育シンポジウムの開催

「手をとりあい、知恵を出し合おう」をテーマに、３月５日に守山市民ホールで開催し、湖南地域の農村女性活動グループ員、健康推進員等約200名の参加がありました。

神戸大学名誉教授の保田茂氏の講演「21世紀の私たちの課題～食育の大切さ」は、国際的な食糧事情を紹介しながら、ユーモアたっぷりの語り口で「家庭での伝統的なご飯食の実践を」と強調されました。

引き続き、湖南地域農村女性活動グループ会長、(株)平和堂消費生活アドバイザー、草津保健所管内健康推進連絡協議会会長から食育活動の取組事例の紹介が行われました。農村女性活動グループ会長の寺田さんからは、食育について新しい知識を習得したり、グループ員の持つ加工技術や伝統料理を若い世代に伝承する取組が紹介されました。

また、市民ギャラリーでは、農村女性活動グループによる地元食材を使った料理が展示された他、加工品が販売され、来場者に大変好評でした。

農村女性活動グループの取組紹介

市民ギャラリーの様子

3 食育について何か始めてみませんか

アンケートの結果は好評で、このシンポジウムにより食育に対する理解が深まり、地元食材を使った料理や加工品の良さを紹介できました。これを機に、食文化の継承などの食育について一層推し進めるとともに、地産地消を実践する農業者に対する支援を行っていきたいと考えています。

「食育について何か始めてみたい」と考えておられる農業者の方は、当課までご一報ください。

☆「大津・南部の農業」は農産普及課ホームページでもご覧になれます。http://www.pref.shiga.jp/kusatsu-pbo/nogyo/index.html